

インタビュー
コーナー

安心・安全・納得の
医療を行っていきたく
と思います。



沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 院長
下地 武義 先生

P R O F I L E

昭和44年3月 順天堂大学 医学部 卒業
昭和48年3月 ノースウェスタン大学留学 (米国)
昭和54年4月 順天堂大学 脳神経外科 講師
平成元年4月 県立南部病院 脳神経外科 部長
平成5年4月 県立那覇病院 脳神経外科 部長
平成15年4月 県立那覇病院 副院長
平成18年4月 県立南部医療センター・こども医療センター 副院長
平成20年4月 県立南部医療センター・こども医療センター 院長

【賞罰】

2003年 日本小児脳神経外科学会 川淵賞 (最優秀論文賞)

Q1. 院長就任おめでとうございます。院長に就任されてのご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

長いこと副院長をやっていたので、自然な流れの中での人事と受け止めています。今までどおり、気負いなく続けて行きます。

Q2. 新施設に移転してから2年がたちましたが、医療センターは、どのような理念と行動目標を持って医療活動が行われているのでしょうか。上手くいった点、改善点などありましたらお聞かせくださいますか。また今後どのような特色を発揮して民間病院・診療所との連携を図っていかれるかお聞かせください。

現在の理念は、早急に変更するように考えています。Patient focusedを前面に出します。単純明快に安心・安全に加えて“納得”で行こうと思います。

行動目標は、救命救急センターおよび母子総合医療センターをfullに活用した24時間県民に奉仕する医療です。臨床研修の充実や離島医療の支援もちろんあります。医師会の皆さんがご懸念の経営意識の浸透も入っています。

上手くいった点は、循環器系統の診療科の充実でしょうか。成人の科では、循環器内科が1,000例を越す心血管造影検査をこなしていま

すし、血管外科は手術症例が200を越しており順調です。脳神経外科は宮古の患者を受け入れていたこともありますが、年間200手術症例に達しています。今年度は、単独で脳神経外科の後期研修医を育てることのできる施設として学会に申請中です (A項と呼んでいます)。総合内科の新設はかなりユニークです。どの科に属するか分かりかねる患者や、明らかに外科系だが手術の適応が無い患者さん等を受け持っています。研修医にはありがたい科です。そ

の他の内科系・外科系とも順調に業績を伸ばしています。小児科系も順調です。特筆されるのは小児の血管外科の手術数です。年間150例を越しております。お陰で、心配されたPICUの病床利用率が90%を超えて運営されています。新生児科もNICUをfull稼働させています。重症な患児で埋まっています。29床の2つの小児病棟もほとんど毎日満床です。小児外科、小児血液腫瘍科や総合小児科の活躍が目立ちます。那覇病院時代には考えられない病床利用率となっています。このように19年度は全病床の平均病床利用率が97%となっていて病院全体でfull稼働の状態と言えます。改善が必要なのは、それに伴う特に看護師の過重労働問題です。19年度にopenした6階病棟の一部を、看護師の不足で閉鎖を余儀なくされたことは皆さんに多大なご迷惑をお掛けいたしました。申し訳ございません。今後は、休床しているその病床のopenに向けて努力いたしてまいります。

民間病院との連携では、現在、後方病院としてのお願いがmainです。今後、連携パスを利用して更に充実させていただけたらと考えます。民間の急性期病院との連携は、現在まだまだ弱いと考えています。3次救急を取れるように頑張ります。診療所との連携は、紹介状の返事を100%にしようとか、外来の患者さんの逆紹介を積極的に行うように何度も医局員には通達しております。近々、外来の整理を考えており、逆紹介が更に増えるものと考えられますので、医師会の皆様のご協力をお願い申し上げます。

Q3. 医師、看護師の確保、離島医療支援等ご苦勞されているかと存じますが、現状と対策について下地先生のお考えをお聞かせください。

医師確保は、琉大病院の多大なご支援で何とか診療が続行されています。特に、特殊専門科への応援は、言葉で言い尽くせない感謝の気持ちで一杯です。

看護師の確保は、例の7:1に対応できない

状態なので、看護師への負担が大きく離職者が目立っています。この点の改善が、最大の課題です。院内の業務全体を洗い出して、この問題に取り組む覚悟です。

離島医療支援は6つの離島診療所と久米島を主に応援をしていますが、full稼働しているマンパワーの状態では苦慮する毎日です。与えられた人員で職務の遂行に当たらなくてはと考えるしかありません。

Q4. 現在、本県の県立病院の赤字経営がクロージアアップされていますが、センターにおいて、経営健全化に向けた取り組みとしてどう考えておられるかお聞かせください。

前述したように、センターはfull稼働の状態です。それでも、19年度も赤字の決算を出すでしょう。原因は皆さんご承知の件費率が高いということです。でもあと一息です。最近、特定共同指導を受け、保険診療に対する職員の意識改革ができたかと思しますので、継続して緊張感を持続させて収入の向上を図ります。今年度の診療報酬の改定をよく検討して洩れなく施設基準を申請し、基準を満たしそうな項目については努力して改善し、収入の増加につなげていきます。7月よりDPC対象病院となりますので、これに向けても1月から勉強会を重ねていますが、さらに今後も検討を加えていく予定です。先行している民間病院のご教示を受けなければならないと考えています、ご協力のほどお願い申し上げます。支出の面の改善も課題です。現場では、診療材料の無駄を見直して徹底的に支出の改善を行う覚悟です。県においても今年度は、機器購入交渉の取り組みが始まっておりますので、支出の面での抑制効果があると確信しております。

Q5. 県医師会に対するご要望がございましたらお聞かせください。

お世話になるばかりで要望はありません。各種の講演会を開いていただき、とても参考になっています、これからもどんどん時勢にあった

講演会を開催していただきます。

Q6. 先生の趣味や座右の銘などお聞かせいただけますか。

趣味は第一に囲碁です。学生時代から始めていますが、いわゆる碁キチの部類に入るでしょう。次にゴルフです。大学にいた頃はわたしがゴルフなんて考えられませんでした。南部病院時代に始めて、はまっています。座右の銘としては、“温故知新”です。私の場合、古いこ

と、すなわち、教科書に記載されていることや、いわゆる evidenced based medicine に裏打ちされた各疾患の guide line を知った上で、どんどん登場する新医療機器を駆使したり、臨床研究を行い新事実の発見や知見を見出し、医学の発展に貢献したいと考えております。

新米院長ですがご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

インタビューアー：広報委員 照屋 勉

お知らせ

第106回沖縄県医師会医学会総会

期 日：平成20年6月8日（日）

会 場：沖縄県立浦添看護学校

第106回沖縄県医師会医学会総会会頭

群星沖縄臨床研修センター長 宮城 征四郎 先生

特別講演（13：00～14：00）

「死生学入門 ～こころ豊かに生きるために～」

上智大学 名誉教授 アルフォンス・デーケン 先生

ミニレクチャー（10：30～11：30）

「抗血小板、抗凝固療法中の患者の歯科治療、内視鏡処置、小外科の処置時の取り扱いについて（仮）」

県立南部医療センター・こども医療センター

砂川長彦 先生

「認知症について ～日常診療における認知症の診断と治療、家族への説明のポイント～」

城間クリニック 城間清剛 先生

一般講演【142題】（9：00～16：15）